



ご当地 **ふ坊さん** 茨城

茨 歯 会 報

No.594

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

December

2018

平成30年

12



Contents

デンタルアイ	1
飯島 清人	
理事会報告	3
会務日誌	5
学術委員会だより	8
地域保険委員会だより	14
学校歯科委員会だより	17
警察歯科協議会だより	29
専門学校だより	30
同好会だより	32
鹿志村 圭	
ピンクのエプロン	34
池田 明美	

表紙写真について

茨城県フラワーパークの イルミネーション

足利フラワーパークと比べると、知名度は低いのですが、今年は100万球にスケールアップして開催しています。

(社)茨城・県西歯科医師会 古橋 仁

“平成”と“IT”



理事
飯 島 清 人

平成30年も残すところあとわずか、来年は、新元号が施行されます。そこでこの30年を情報管理の側面から振り返ってみると、実に多くの変遷があったことがわかります。

平成元年（1989年）、歯科医院のレセプトは、まだ手書きが主流でした。レセプトコンピュータ（以下、レセコン）は、オフィスコンピュータ（以下、オフコン）とドットインパクトプリンタと連続紙の組み合わせが主流であり、印刷に数時間を要したがそれでも手書きよりは圧倒的に早かったですね。

1991年、超小型携帯電話「movi」発売

1993年、日本での商用インターネットサービス開始

1994年、行政関連文書のA4化、携帯電話の売り切り開始

1995年、Windows95発売は、パーソナルコンピュータ（以下、PC）が一部マニアやエンジニアのものから広く一般社会に広まったことはエポックメイキングでした。歯科ではまだオフコンが活躍しており、PCが主力として医院導入されるのは、まだ数年先だった記憶があります。

1998年、cdmaOne（DDIセルラー）発売

1999年は、NTT分割やi-modeサービス開始、商用ADSLサービス開始もありました。社名変

更で「J-PHONE」が誕生。あの7月は何事もなく無事通過しました。

2000年、全キャリアでアナログ方式携帯電話のサービス終了

2001年、WindowsXPが発売され、時間差はあるもののレセコンがPC機に変わり、プリンターもレーザープリンターに変わり、印刷時間が数時間から10数分にまで短縮されたのもこの時期です。光回線（FTTH）が開始され、いよいよ大容量・高速通信が本格化します。

2010～2011年頃がスマートフォン元年と言われるようですが定かではないようです。ただ普及は急速に進み、現在は75%以上がスマートフォンとなり、固定電話やパソコン保有率を上回っています。従来型携帯電話（Future Phone）は29.3%です。

2015年、マイナンバー制度開始

2017年、レセプトオンライン開始。プリンターの呪縛・編綴等から解放されます。ただし、インターネット接続環境は必須となり、公的機関からの情報提供等も同様のものとなりました。

これらと連動するように、Facebook、Twitter、LINE、そしてInstagram等々サービスは次々生まれ急速に発展していくのがデジタル

社会であり「平成」の特徴の1つでしょう。

そして速度は緩やかながら確実に進んでいるのが高齢社会です。頻繁に取り上げられるようになったのも「平成」の特徴の1つだと思います。

「平成29年簡易生命表」によると、日本人の平均寿命は、男性が「81.09歳」、女性が「87.26歳」と過去最高を更新しました。65歳以上の高齢者の占める割合が全人口の7%を超えた社会は「高齢化社会」、14%を超えた社会は「高齢社会」と呼ばれ、日本でも全人口の21%を超えた「超高齢社会」となるのは時間の問題といわれています。

平均寿命が延びることに関連し、定年延長や年金支給年齢引き上げ等が広く検討されるようになり、「人生100年」もよく耳にするようになりました。敦盛の2倍ですね。地域医療そして介護医療は、医科・歯科単独では到底成り立たず、行政や多業種による連携医療がより効率的に稼働できるよう密接な取り組みが必要であり、地域包括ケアシステムの構築が求められています。

立場を変えて、我々歯科医師側の年齢構成を見ると、茨城県歯科医師会の場合、65歳以上29.7%と一足早く超高齢社会を迎えています。

平成30年11月現在、平均年齢：59.3歳、最頻値：60歳、中央値：60歳となっています。構成としては55～69歳54.5%と半数を占め、特に60～64歳に21.6%が集中しています。この年齢帯が多いのは、人口10万人に対し歯科医師50名

とする施策により、1960年初め7校だった歯学部・歯科大学が、1980年代前半にかけ新設・増設され、国立11校、公立1校、私立17校の計29校となったこと。それに伴い、入学者数も約700人から約3400人へと大幅に増加した時代とほぼ重なるのはご承知のことと思います。その後、平成26年頃は入学者数も約2400人まで削減され、今に至っていますが、人口10万人に対し歯科医師81.8人とかなり超過しています。今後10～15年後の会員構成については、需給問題と合わせて注視していかなければなりません。

さて、11月現在の会員1300余名は男性87.8%：女性12.2%の割合で構成されています。東日本大震災の前後で比較すると、震災以前は男性88.6%：女性11.4%、震災以後では男性81.3%：女性18.7%となっています。平均値：42.5歳、最頻値：35歳、中央値：41歳ですが、会員数としては既に全体の11.5%を占めています。

また、女性会員の比率は約10年間隔で振り返ってみると、約1～2%ずつ増加していたのに対し、震災後は約7%と非常に大きくなっています。

大学での女子学生比率が増加している影響が大きいのですが、今後も更なる増加が予想されることから、日本歯科医師会でも、「女性歯科医師を応援する就職支援サイト」をホームページ上に開設し支援を開始しています。女性歯科医師の割合が増加するのも「平成」の特徴かもしれません。

理事会報告

第7回理事会

日 時 平成30年10月18日（木）14時

場 所 茨城県歯科医師会館 会議室

報告者 増本章典

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 報 告

(1) 一般会務報告

(3) 第27回県民歯科保健大会について

(4) （日歯より）女性の政策方針決定参画状況
に関する調査について

(5) 「平成30年度茨城県医療安全研修会」の後
援依頼について

(6) 日歯災害歯科災害歯科保健医療体制研修会
について

(7) 疾病共済の支払いについて

土浦石岡地区	1名	61日
県南地区	1名	15日
県南地区	1名	40日

(8) 第22回県総合リハビリテーションケア学会
学術集会への後援・単位認定について

(9) 警察歯科協議会の開催について

(10) 大規模災害 即時対応マニュアル（案）
及び災害対応規定・細則（案）について

(11) HIV歯科治療ネットワーク構築について

(12) 2019年学術シンポジウムの開催について

(13) 委員会報告

4. 協議事項

(1) 入会申込みの受理について

今井加奈子先生	東西茨城地区	1種
	東北大歯	承認
人見 祐一先生	土浦石岡地区	1種
	日大松戸	承認
齋藤 徹先生	つくば地区	1種
	東歯大	承認
井口 寛弘先生	県南地区	2種
	医歯大	承認
岩崎 隆行先生	県西地区	2種
	奥羽大歯	承認
川崎 陽子先生	西南地区	1種
	東北大歯	承認

(2) 茨歯会報告の掲載について（岡山情報処理センター）
承認

(3) 平成31年度会費免除申請について
承認

(4) 第7回MITO世界チョコレートフェスティバルへの協賛金のお願い
一口2万円を協賛金とすることで承認

(5) 平成31年度事業計画及び事業予算案の提出について
事業予算の努力目標を今年度より1割削減することで承認

(6) 第17回日本睡眠歯科学会総会・学術集会の公務出張の取り扱いについて
承認

(7) その他

県歯科医師会と県保健福祉部との協議会の開催について
承認

○行事予定について

平成30年10月25日（木）

9時 地区対抗ソフトボール大会

平成30年11月11日（日）

13時30分（開会） 県民歯科保健大会

平成30年11月15日（木）

14時30分 第8回理事会

16時30分 県保健福祉部との協議会



株式会社 岩瀬歯科商会



イワセオリジナルユニット
SIGNO NEXT



これまでも、これからも、いっしょに
Iwase Dental Supply (INC.) CO., LTD.

昭和の幕開けと共に栃木県で創業した弊社は、今年で90年目を迎えます。
皆様方への感謝を忘れず、未来を見据えた歯科ディーラー像を創造して参ります。

■ 会社名称 株式会社 岩瀬歯科商会
■ 代表取締役 岩瀬 浩二
■ 本社所在地 栃木県宇都宮市中央区上落合 2-1-24 TEL: 048-832-1315
■ 東京支店 東京都台東区上野 2-11-15 TEL: 03-3834-6161

■ 製造販売・製造 株式会社 モリタ東京製作所
■ 本社 埼玉県さいたま市中央区上落合 2-1-24 TEL: 048-832-1315
■ 伊勢工場 埼玉県北足立郡伊勢町小室 7129 TEL: 048-723-2021

■ 発売 株式会社 モリタ
■ 大阪本社 大阪府吹田市豊水區 3-23-18 TEL: 06-6380-2525
■ 東京支店 東京都台東区上野 2-11-15 TEL: 03-3834-6161

事業所案内

支店名	所在地	TEL
本社	台東区台東2-23-7	TEL:03-3832-8241
宇都宮支店	宇都宮市平出工業団地37-6	TEL:028-613-5858
水戸支店	水戸市白梅2-8-18	TEL:029-225-6543
松戸支店	松戸市幸谷観音下159-1	TEL:047-345-3131
千葉支店	千葉市中央区浜野町879-1	TEL:043-305-1182
上野支店	台東区台東2-23-7	TEL:03-3832-8241
古河支店	古河市下山町9-60	TEL:0280-30-1582
福島支店	福島市鎌田字卸町4-1	TEL:024-552-1161
世田谷支店	世田谷区玉川台2-11-17-101	TEL:03-5491-7595
練馬営業所	練馬区豊玉北4-14-11	TEL:03-5912-1180
横浜支店	横浜市栄区小菅ヶ谷1-28-9-101	TEL:045-895-3808
5月GW明け以降	横浜市磯子区中原2-1-19	TEL:045-770-4182
前橋支店	前橋市紅雲町1-22-2	TEL:027-243-8241
5月GW明け以降	高崎市京目町176-2	TEL:027-350-8241
厚木支店	厚木市酒井2087-14	TEL:046-228-5550
大宮支店	さいたま市見沼区東大宮7-41-1	TEL:048-688-1740
盛岡支店	盛岡市上堂1-6-5	TEL:019-648-2777
東大和支店	東大和市立野3-640-1	TEL:042-590-5770

会務日誌

- 10月18日 専門学校創立50周年記念式典がホテルレイクビュー水戸にて挙行された。
出席者 235名
- 10月18日 労働保険事務組合事務担当者研修会がテラスザガーデン水戸にて開催され、働き方改革ほ
かについて研修が行われた。
出席者 須能
- 10月18日 第7回理事会を開催。入会申込みの受理、茨歯会報広告の掲載について（岡山情報処理セ
ンター）、会費免除申請、第7回MITO世界チョコレートフェスティバルへの協賛金のお願い、次年度事業計画及び事業予算案の提出、第17回日本睡眠歯科学会総会・学術集会の公務
出張の取り扱いについて協議を行った。
出席者 森永会長ほか18名
- 10月18日 第7回広報委員会を開催。会報11月号の校正、会報12月号の編集、著者校正の現状・改
善点に関して協議を行った。
出席者 柴岡広報部長ほか5名
- 10月18日 第2回業務・会計監査を執行。業務（4月1日～8月31日）、会計（平成30年度現況）
について監査を実施した。
出席者 鈴木監事ほか7名
- 10月21日 埼玉県歯科医師会110周年記念式典が大宮ソニックシティにて開催された。
出席者 森永会長
- 10月21日 口腔ケア講習会を古河市福祉の森会館にて開催。「要介護高齢者に口腔ケアをしてあげる
理由」の演題で歯科衛生士による実技指導を交えて、保科守介護保険委員が研修を行った。
受講者 34名
- 10月23日 摂食嚥下研修会の第4回目を開催、「摂食嚥下機能訓練の実際②」について実習を行っ
た。
受講者 75名
- 10月24日 第56回手をつなぐ育成会茨城大会が県総合福祉会館にて開催された。
出席者 森永会長
- 10月25日 第23回茨城県歯科医師親善地区対抗ソフトボール大会が水戸市総合運動公園にて開催され
る。今回は日立歯科医師会が主管であり、県内8チームが出場、珂北歯科医師会「珂北ヤン
キース」が15年ぶりの優勝を飾り、準優勝は茨城・県西歯科医師会であった。
参加者 147名
- 10月25日 専門学校にて指定校推薦入試を実施。歯科衛生士科、歯科技工士科の受験者に対し、同日
行われた合否決定委員会にて受験者全員を合格とした。

- 10月25日 関東信越歯科医師会審査委員連絡協議会が日歯会館にて開催される。基調講演「平成30年度診療報酬改定のポイントと今後の課題」の後に各都県からの17の提出議題について協議が行われた。
- 出席者 榊社会保険部長ほか5名
- 10月25日 平成30年度全国学校保健・安全研究大会が鹿児島市にて開催（～26日）。「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」～自ら健康で安全な活力ある生活を送ることができる子供の育成～をテーマに、全体会では表彰式、記念講演が開催され、翌日は10題の課題別研究協議会が行われた。席上、学校保健功労者として長濱勝榮氏（古河市）が文部科学大臣表彰を受けられた。
- 出席者 千葉理事ほか1名
- 10月25日 第68回全国学校歯科医協議会が鹿児島市にて開催され、「こんなところにも目を向けよう！スクリーニングとして重要な学校歯科健康診断」と題して鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野教授の山崎要一先生が講演された。
- 出席者 千葉理事ほか1名
- 10月29日 第1回県後期高齢者医療広域連合運営懇談会が水戸市「ミオス」にて開催され、医療費等の状況ほかについて協議が行われた。
- 出席者 黒澤副会長
- 10月31日 保険医療機関を対象とした個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。
- 対象医療機関数 4
- 10月31日 地域医療連携推進懇談会運営委員会が県立中央病院にて開催され、地域医療連携推進懇談会運営委員会要項の改正ほかについて協議が行われた。
- 出席者 今湊理事
- 11月 1日 第6回歯科助手講習会を開催。「共同動作」、「救急処置」について講義を行った。
- 受講者 39名
- 11月 1日 第4回茨城スポーツ・健康づくり歯学協議会プロジェクトチーム委員会を開催。2月歯科医学会「三ヶ田氏」講演会、一次後方支援歯科診療所、二次後方支援病院選定、国体開会式での四師会での啓発ブース、今後の救護所派遣の展開、障害者スポーツ大会への救護所派遣について協議を行った。
- 荻野いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会プロジェクトチーム委員長ほか5名
- 11月 3日 第71回栃木県歯科医学会が栃木県歯科医師会館にて開催される。本県より関隆氏が研究発表の講演を行った。
- 出席者 今湊学術部長ほか4名
- 11月 3日 県看護協会創立70周年記念式典が水戸プラザホテルにて開催された。
- 出席者 黒澤副会長
- 11月 5日 県警大震災警備訓練の一環として、県警捜査一課主催の多数死体取扱要領訓練が県警察学校武道館にて実施され、本会よりの講師が口腔内所見採取について講演を行った。
- 出席者 小林警察歯科医ほか1名

- 11月 7日 県学校保健会長ほう賞選考委員会が県メディカルセンターにて開催され、平成30年度県学校保健会長ほう賞受賞者の選考について協議を行った。
出席者 森永会長ほか1名
- 11月 8日 専門学校にて公募推薦入試を実施。歯科衛生士科、歯科技工士科の受験者に対し、同日行われた合否決定委員会にて合否を判定した。
- 11月 8日 保険医療機関に対する集団的個別指導が水戸生涯学習センターにて実施された。
対象医療機関数 46
- 11月11日 第27回茨城県民歯科保健大会を開催。高齢者よい歯のコンクール、親と子のよい歯のコンクール、茨城県歯科保健賞および歯と口の健康に関するポスターコンクールの表彰を行った。
参加者 170名
- 11月12日 第2回ケアプラン適正化検証委員会が県産業会館にて開催され、試行事業の進捗状況ほかについて協議が行われた。
出席者 小野寺理事
- 11月13日 各分野において県勢発展に著しい功績があった方々を称える「茨城県表彰」の表彰式が茨城県庁にて執り行われた。
出席者 森永会長
- 11月14日 都道府県専務理事連絡協議会が日歯会館にて開催され、時局問題について協議が行われた。
出席者 渡辺専務
- 11月14日 第7回社会保険正副委員長会議を開催。第8回委員会、審査委員連絡協議会、次度事業計画（案）及び事業予算（案）、指導、疑義、理事会、審査内容について協議を行った。
出席者 榑社会保険部長ほか3名
- 11月14日 第8回社会保険委員会を開催。審査委員連絡協議会の各都県の回答、疑義、次度事業計画（案）及び事業予算（案）について協議を行った。
出席者 榑社会保険部長ほか20名



平成30年度 学術シンポジウム開催報告 「超高齢化社会における地域医療を担う 我々開業歯科医師の役割」

日時:平成30年9月30日(日)10:00~16:00

場所:茨城県歯科医師会館3階講堂

学術委員会 阿部 英一

平成30年9月30日(日)台風24号(Trami)が迫るなか、米山武義先生、ならびに宮崎秀夫先生をお招きして、「超高齢化社会における地域医療を担う我々開業歯科医師の役割」と題して、参加者71名のもと、森永和男会長から開会のご挨拶後、学術シンポジウムを開催いたしました。

趣旨

来るべき2025年問題を踏まえ、超高齢化社会の中での口腔保健医療を担う我々開業歯科医がその対応について考え、取り組むべき時代が目の前に迫っています。高齢期を迎えるまで、またターミナル期を迎えるまでのそれぞれのライフステージにおけるプライマリーヘルスケアをどう推進していくのか、そしてその過程での歯科医師としての役割、明日からでもできる口腔ケアや口腔機能の維持・向上への対応についての貴重なご講演をいただきました。

講演内容

講演1

『開業歯科医師が地域医療の骨格を担う時代が来た！—「口腔医療時代」を迎える準備ができていますか！？』

米山歯科クリニック(静岡県)

米山 武義 先生

近年、口腔健康管理(口腔ケア)は、歯科疾患の予防を目的としたものから、口腔の持つあらゆる働き(摂食、咀嚼、嚥下、構音など)を健全に維持し、全身健康に寄与するものとして理解され、実践されようとしている。歯科が長い間、医療の中核から遠い位置に甘んじていた事は否めない。しかし近年、口腔管理(衛生管理、機能管理)が肺炎等の感染症の予防や生活習慣病予防に極めて重要な位置にあり、様々な疾病の回復にも口腔管理が重要である事が多くの研究から明らかになりつつある。



私は近未来“口腔医療の時代”を迎えると固く信じている。それは何より口から食べると元気になり、人生に納得するからである。人生は口で決まる。我々は真剣に「口腔からの医療革命」を地域から推し進めなければならない。「入り口よければ終わりよし、終わりよければすべてよし」歯科医療の存在価値はそこにあるのではないか。

講演2

『超高齢ステージに突入する前段階での地域歯科医師の役割』

明倫短期大学（新潟県） 副学長
宮崎 秀夫 先生



超高齢社会では、限られた医療費・社会福祉財源と人的資源を有効に活用する事が不可欠である。口腔保健医療の職域に期待される事は、要介護高齢者に対する口腔ケアやリハビリに積極的に参入する事に加え、口腔の局所炎症や歯の喪失の帰結として生じる全身組織・臓器への負の影響を

予防し、医療・介護が必要となる高齢者の絶対数を減らす事である。

そもそも、死ぬ直前まで高いQOLを確保する事は国民の究極の望みであり、口腔保健医療は不適切な栄養摂取や高栄養による肥満・糖尿病，低栄養による炎症性疾患や癌など生活習慣病予防に貢献してきたはずである。同時に、我々の治療分野では、歯科疾患から咬合・咀嚼機能喪失，低栄養を通し、歯科疾患の増悪化に戻る負のスパイラルを遮断する事、オーラル・フレイルティ・サイクルへの移行を可及的に防止する事が重要であり、そこに本来の役割がある。オーラルフレイル予防では遅過ぎる、それは歯科医師の敗北を意味するものである。2大歯科疾患はstaff care、口腔保健指導、教育で予防できるものである。高齢者社会にはprofessional careが必須であり、それには歯科衛生士が地域のコミュニティーで活躍できるよう、どのように戦略的に配置すれば良いか、歯科医師全体で考えるべきである。

シンポジウム ディスカッション

座長：中井巳智代委員

台風24号の影響で、東海道新幹線が16時に運行中止との情報が入り、米山先生は、講演会終了後早めに帰路に就かれ、ディスカッションでは書面により会場からの質問にご回答をいただきました。

質疑応答（米山先生へ）

質問1：口腔ケアには重要な効果がある事を立証していただきました、国民にそれをさらに宣伝していただければ、例えば、なかなか効果がでなくても口腔ケアを継続していただけたと思います。さらなる普及をお願いします。そうならば訪問診療も行きやすくなると思います。「地域が一つの病院」とい

うのは良い言葉です。家族に理解が得られず、失敗あるいは継続できなかった例はありますか。

回 答：訪問看護をされているような場合、その看護師さん、ケアマネージャーさんと仲良くなって、そこで十分アナウンスしていただいたり、ご家族に同意を得たり、教育をされたりする事が肝要なのではないかと思います。うまくいかなかった事もあります、それには、地域の人々の理解度を上げる事が必要です。



質問2：認知症が進んで、お口の周囲や口腔内を触ると暴れる患者さんの対応方法は。

回 答：決して薬ではありません、とても大変です。口腔周囲のマッサージをしながら口腔周囲の皮膚を触れる事も、目線も大切です。目線は平にして遠位から近位に触れてくる事、フレンドリーに接する事や、焦らずあまり高い目標を立てない事も大切です。

質問3：病院歯科は変化しつつあり、地域における歯科医はまだ治療優先、疼痛治療優先で、格差を感じる事があるが、組織や歯科医師会での対応に良案はありますか。

回 答：病院長のお考えが大切だと思います。病院はトップダウンが活かされます。しかし、地域の歯科医は外からの圧力、訪問関係の職種やケアマネージャーさんからの要請が動きを促すと思います。

質問4：ロイテリ菌について先生のお考えをお聞かせください。

回 答：深い考察ができていませんのでここでのコメントはお許し下さい。

質問5：口腔粘膜炎と薬の関わりを医科の先生とどのように対応されているでしょうか。口腔領域に対する抗コリン作用のある薬についての理解があまり得られていないのが現状だと思います。

回 答：薬の副作用が口腔に現れやすいという事を業種間で共有する事が大切です。マスコミで少しずつ大切な情報として流してほしいと思います。

質疑応答（宮崎先生へ）

座長：上野卓也委員

質問1：研究データを収集する前に倫理委員会を通す必要がありますが、書類を製作する上で参考になる書物やインターネットのサイト等があれば教えてください。倫理委員会で書類を通すための注意点について。

回 答：どこの組織の倫理委員会に書類を出されますか。それによって書類のフォーマットがあります。チェックリストにしたがって製作していくとほぼ完成する型になると思います。ネットで検索すると公になっていないものでも見つかる場合があります。それを利用する

事もできます。書物でまとまっているものはないと思います。ポイントは2つ。①個人情報保護に関するもの。②生体侵襲性の有無です。



質問2：ディスバイオシスという言葉が最近目につきます。口腔内細菌と腸内細菌との関わりについてご教示ください。口腔常在菌のコントロールが医療の中心的役割になる事に期待感があるのですが。

回答：よく解りません。これが正直なところです。期待感をもって良いと思うのですが、口腔内細菌と腸内細菌の関連性は、複雑怪奇なものだと思います。抗菌薬を使用してかなり腸内細菌を抑えようとすると、口腔内細菌も同時に減ってきます。これが良いかどうかは解りません。口腔内の悪玉菌を善玉菌に置き換えて行こうという試みはされています。あまりきれいでも良いとは言えないかもしれません。サブリとして摂っても1週間は持ちません。毎

日摂らないといけないようで、そこまでする価値があるかどうか、本当のところは解りません。

質問3（中井委員）：フレイルになってからの予防では遅いのではないかと思います。それぞれの年齢のステージでアプローチしていく事は色々あると思いますが、フレイルになる前の段階で一番重要なポイントとしておさえておきたいステージはありますか。

回答：理論的には反抗期である18、19歳までが、鍵を握っていると思います。成人に達したときには社会に対する責任、自分自身の健康管理責任という事もあります。健康コードを形成してそれを実行できるようにならなければ社会人にはなれません。小学校を卒業した後、親の手から離れてもそれまでに築き上げてきたものはかなりの財産になっていると思います。

中井委員：それではこの辺でディスカッションを終了させて頂きたいと思います。宮崎先生ありがとうございました。これにてシンポジウムを閉じさせていただきます。

この後、黒澤俊夫副会長より宮崎先生へ感謝状贈呈があり、閉会のご挨拶をいただきシンポジウム閉会となりました。

第71回栃木県歯科医学会に参加して

学術委員会 阿部 仰一

去る11月3日に第71回栃木県歯科医学会が開催されました。茨城県歯科医師会から学術担当理事の今湊良証先生、学術委員長の安藤和成先生、学術委員の中川威先生、学術委員の阿部、茨城県代表として口演発表を行った関 隆先生の計5名で参加してきました。



初めて参加する私は、8時半現地集合という時間にやや緊張しながら、宇都宮市にある栃木県歯科医師会館に向かいました。着いた場所は広い駐車場で、羨ましい感じがしました。その代わり建物の方は、茨城県歯科医師会館に比べるとやや小ぶりの感じでした。

プログラムはA会場で午前が一般口演、午後が特別講演、また午前のみB会場で特別講演、D会場で症例発表が行われました。8時45分から開会式が行われ、9時から一般口演が始まりました。会場が3つあるためA会場はやや空席が目立ち寂しい感じもしましたが、症例発表が行われた会場は狭い部屋のせいもあって立ち見が出るほどの盛況でした。

一般口演は計19題で、約半数が獨協医科大学

口腔外科、自治医科大学口腔外科などの病院歯科の発表でした。茨城県歯科医学会でも病院歯科の発表が多いので開業医の学会発表は敷居が高いのかもしれませんが、しかしながら、地区歯科医師会から、症例報告タイトルの計量テキスト分析という初めて見るような口演や、最新の口腔内スキャナーの口演等、わかりやすく興味ある発表がありました。

本県からは、日立歯科医師会の関 隆先生が「睡眠時無呼吸症への日立歯科医師会の取り組み」というタイトルで発表されました。日鉦記念病院との医科歯科連携の目的や経過、その成果について口演されました。CPAP療法とOA（口腔内装置）との比較では、装着感、携帯性、経済性で優っている事、またOAの有用性について実際の症例を交えて発表されました。最後に、茨城県の睡眠時無呼吸症医科歯科ネットワークの構築についての紹介もあり、茨城県歯科医師会のPRにもなったかと思います。



栃木県歯科医学会では、歯科医師以外に技士会、衛生士会、さらには栄養士会からの口演発表

がありました。多職種連携や地域包括ケアという観点からすばらしい事だと感じました。

午後の特別講演は会場もほぼ満席になり、日本歯科大学教授で日本歯科大学新潟病院在宅ケア新潟クリニック院長の黒川裕臣先生による「在宅医療 ～もう一步上の新たなステージへ～」というタイトルで行われました。昭和62年にプロジェクトチームを編成して在宅歯科往診ケアチームが発足した話から、在宅寝たきり老人歯科保健推進事業に取り組んだ事、平成6年に在宅医療が明確化され、外来、入院に次いで第3の医療と位置付けされた事など、また新たなステージとして在宅医療のみを実施する「在宅ケア新潟クリニック」を開設した事などを、多方面からまた具体例を示しながら、2時間45分という長時間にわたって講演されました。地域包括ケアシステムで口腔機能改善に積極的に対応し、人間の生活の根幹に関わる生きる力を支援するのが、我々歯科医師に求められているという言葉が印象的でした。

16時30分から閉会式が行われ、無事閉会しました。

今回、初めて参加して、コンパクトながら内容の濃い栃木県歯科医学会に好印象を持ちました。また、地区歯科医師会の支部長が座長を務めた

り、次演者席が縦に5席ほど並んでおり演者のみなさんがきちんと座ってる姿も、印象に残りました。機会があったらまた参加させていただきたいと思います。

なお、学会終了後、宇都宮グランドホテルで懇親会が行われ、今湊理事、関先生、阿部が参加し、栃木県歯科医師会の先生方と親睦を深める事ができました。





第77回日本公衆衛生学会に参加して

地域保健担当理事 北見 英理

平成30年10月24日（水）～10月26日（金）にかけて、福島県郡山市において第77回日本公衆衛生学会総会が開催され参加しましたので報告いたします。

総会のメインテーマは、「ゆりかごから看取りまでの公衆衛生～災害対応から考える健康支援～」でした。安村誠司学会長（福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座教授）は、

『今から約7年前の2011年3月11日に東日本大震災が起こり、東北地方太平洋沿岸を中心に甚大な被害が発生しました。この年の第70回総会（秋田市）では、「被災地の公衆衛生を語る－課題解決に向けて－」について語られ、復旧・復興に向けた課題は、徐々に実現してきていると考えます。しかし、福島は状況は、東京電力福島第一原子力発電所事故により、現在でも、避難者は帰還した人、帰還を迷う人、帰還しない事を決めた人など多様であり、人々の健康の保持、生活の支援には依然として問題は山積みです。

今年は、福島にとって戊辰戦争後150年という記念の年です。明治維新後、会津を含めた福島はあらゆる意味で厳しい状況でした。戊辰戦争の際に敵味方なく看護・介助し、その後も孤児・病人のための救済施設を作るなど、「日本のナイチンゲール」と称される瓜生岩子は福島県民の象徴と言えます。1871（明治4）年に、福島県立医科大学の前身にあたる白河医術講義所が開設され、2年で須賀川に移転し、須賀川医学校となりました

が、ここで西洋医学を学んだのが後藤新平です。後藤新平は明治政府の内務省衛生局長に就任したあと、1920（大正9）年に東京市長となり、1923（大正12）年の関東大震災後の復興と近代都市の建設に大いに貢献した事でよく知られています。また、世界的な細菌学者として有名な野口英世は、渡米前に横浜検疫所検疫官補として、感染症対策の第一線で活躍しました。福島の歴史から日本の近代化の一面を垣間見る事ができます。

本総会は東日本大震災という苦難の中で、前を向き、歩んでいる福島県民や東北の人々の命と健康を守り、生活を支える支援を公衆衛生として何を行ってきたのか、また、今後行うべきなのか、考える機会になればと思っています。』と述べられました。

地域保健委員会では、平成21年の第69回から10年連続で本学会に参加し、「新しい歯科健診“口腔機能健康測定”」について示説しています。今年度は、演題名を「口腔機能健康測定の学校歯科保健活動への応用に関する研究 第2報高等学校での活用法の検討」として発表しました。下記に抄録を示します。

【共同演者】北見英理¹⁾ 戒田敏之¹⁾ 福田雅臣²⁾

【所属】茨城県歯科医師会¹⁾

日本歯科大学生命歯学部衛生学講座²⁾

【目的】学校歯科健康診断は大学以外の学校で

実施する事としている。そのため、高等学校での歯科保健活動は成人期以前の口腔保健状況を把握する最後の機会となると同時に、成人期に向けた歯科保健のための行動変容を促す重要な位置付けにあるといえる。しかしながら、高等学校での歯科保健活動は、小中学校に比べて充実した活動が行われているとはいえない状況にある。今回、高等学校および40歳住民に対して、茨城県歯科医師会が開発した「口腔機能健康測定」を実施する機会があり、その結果を解析し、高等学校での活用方法について検討したので報告する。

【対象と方法】調査対象は茨城県内のA高等学校の男子101名・女子115名、計216名と、B市在住40歳の男性92名・女性73名、計165名です。口腔機能測定では、PS（ペリオスクリーン）は－・＋・＋＋の3段階で評価した。混合力検査は赤と青の粒ガムを30回と60回咀嚼させ3段階で判定し、咀嚼回数と混合状態の組合せで3群に区分した。これらの結果から総合判定を青信号：PS（－）正常群、黄信号：PS（＋）正常群、赤信号：青黄以外

の3段階に層化した。口腔内状況と生活習慣に関する問診調査は口腔内状況8項目、ガム咀嚼時の状態7項目、生活習慣7項目で、自記式で回答してもらった。

【結果】高校生群での口腔機能測定結果と問診結果との関連性を分析したところ、残念ながら有意な関連性を示す問診項目はありませんでした。また、高校生群、40歳群別に青信号群と黄・赤信号群を目的変数とした数量化2類による分析結果では、高校生群でレンジ値の大きかった項目は口臭、間食、朝食、食事で、40歳群ではむし歯、出血、口の開閉、歯の欠損で、両者では全く異なる結果となりました。

高校生群では、口臭がある人、朝食を食べない人、食事が不規則な人が、黄赤になりやすい、40歳群ではむし歯がある人、出血がある人、口の開閉に問題がある人が、黄赤になりやすい。

【結果】

【考察】高校生群では40歳群と異なり、口腔内

図3 各項目とカテゴリースコア(高校生群)

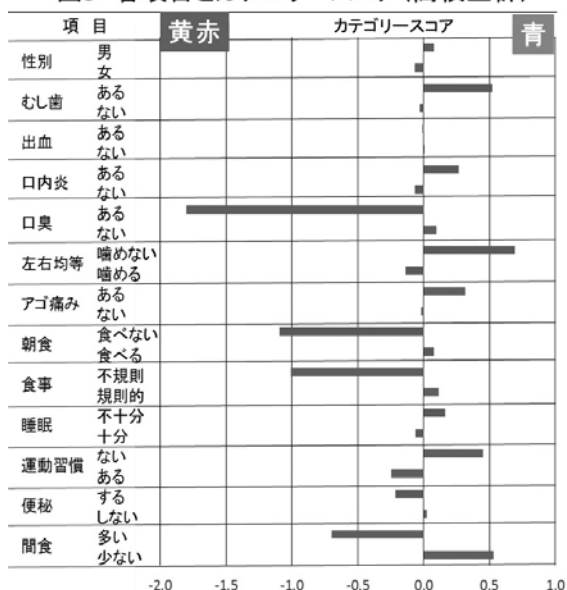


表1 各項目とレンジ値(高校生群)

質問項目	レンジ		偏相関係数	
口 臭	1.899	1位	0.097	2位
間 食	1.231	2位	0.136	1位
朝 食	1.168	3位	0.065	6位
食 事	1.122	4位	0.073	4位
左右均等	0.831	5位	0.070	5位
運動習慣	0.696	6位	0.075	3位
むし歯	0.553	7位	0.029	8位
口内炎	0.336	8位	0.030	7位
アゴ痛み	0.332	9位	0.017	10位
便 秘	0.240	10位	0.016	12位
睡 眠	0.221	11位	0.022	9位
性 別	0.143	12位	0.017	11位
出 血	0.009	13位	0.001	13位

図2 各項目とカテゴリースコア(40歳群)

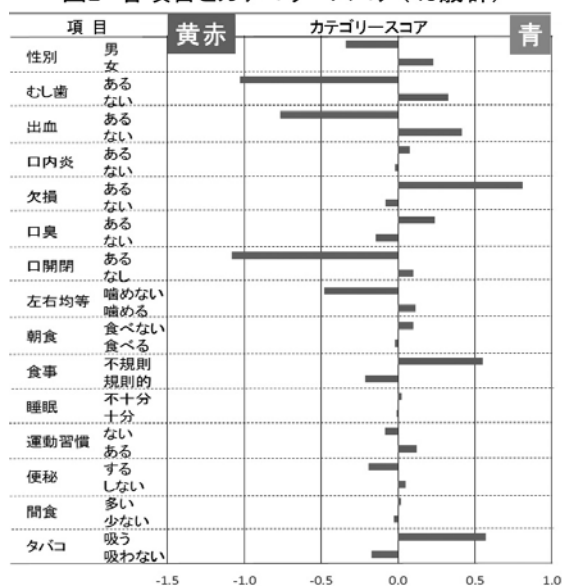


表2 各項目とレンジ値(40歳群)

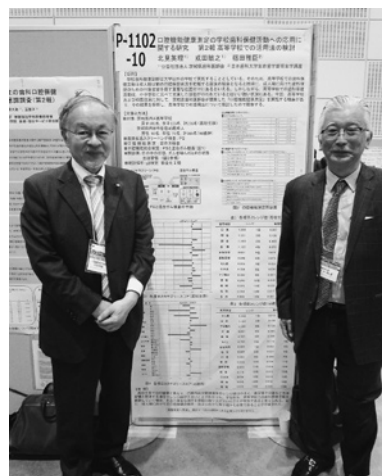
質問項目	レンジ		偏相関係数	
むし歯	1.358	1位	0.212	1位
出血	1.182	2位	0.198	2位
口開閉	1.180	3位	0.120	3位
欠損	0.891	4位	0.095	7位
食事	0.767	5位	0.104	5位
タバコ	0.744	6位	0.113	4位
左右均等	0.593	7位	0.082	8位
性別	0.567	8位	0.097	6位
口臭	0.381	9位	0.064	9位
便秘	0.238	10位	0.034	11位
運動習慣	0.202	11位	0.036	10位
朝食	0.118	12位	0.015	12位
口内炎	0.096	13位	0.014	13位
間食	0.048	14位	0.008	14位
睡眠	0.028	15位	0.004	15位

状況関連項目のレンジ値は小さく、食習慣や口臭など生活習慣と関連する項目でレンジ値が大きい事がわかった。すなわち、高等学校での歯科保健活動を展開していく場合、定期歯科健診による口腔内状況の把握だけではなく、生活に身近な項目を課題に取り上げていく事が有効であると考えられる。また、成人期に向けての口腔保健の維持・向上に向けた取り組みも必要である事が示唆された。

今年の学会では、東京歯科大学歯科社会保障学教授 上條英之先生、東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野准教授 相田潤先生、東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野 草間太郎先生（常総市出身）、日本歯科大学東京短期大学教授 大島克郎先生、国立保健医療科学院生涯健康研究部主任研究官 田野ルミ先生、東京都歯科医師会事業第一課課長 荒木毅氏などと交流を深めてきました。

特に、国立保健医療科学院田野ルミ先生からは、禁煙支援のアンケート調査を実施するので、茨城県歯科医師会の「禁煙支援・相談歯科医院」の先生方には多大なるご協力をお願いしたいとの

お話がありました。近日中にアンケート用紙が届くと思いますので、その節は、よろしくお願いいたします。



共同演者の福田雅臣教授とポスターの前で記念撮影



平成30年度 全国学校保健・安全研究大会

学校歯科委員会 原田 和弥

平成30年10月25日（木）・26日（金）の2日間
鹿児島県鹿児島市において、1日目鹿児島市民文
化ホール、2日目ベストウェスタン レンブラン
トホテル鹿児島リゾートで「生涯を通して心豊か
に、たくましく生きる力を育む健康教育の推進」
を主題に平成30年度全国学校保健・安全研究大会
が開催されました。

県歯学校歯科担当理事の千葉先生と参加してき
ましたので報告いたします。

25日（木）13：00より開会式が行われ、その後
学校保健・学校安全の功労者に対する文部科学大
臣表彰が行われ、本県の受賞者の代理として千葉
理事が出席されました。



26日（金）9：30より課題別研究協議会が行わ
れ、第5課題の「歯と口の健康づくり」に参加し
ました。

「歯と口の健康づくり」

学校における歯と口の健康づくりは「人々の
QOL（生活の質）を高めるとともに健康寿命の延
伸に寄与すること」を目的とする口腔保健・予防
歯科学を活用した教育活動であり、研究発表校の
実践に基づき歯・口の保健づくりを目指した学校
歯科保健活動の進め方について協議するものであ
る。

（1）鹿児島県立鹿児島養護学校

外園 耕司 先生

学校歯科保健の目的「検診・口腔衛生指導・講
活・表彰式の実施等を通して児童・生徒の健康に
対する意識を高め口腔衛生の向上を図る」に設定
し、学校歯科医の協力と支援のもとに児童生徒の
実態に応じて指導を行っている。主な活動として
年2回の歯科検診、歯と口の健康週間に合わせた口
腔衛生指導「いい歯の週間」の設定と啓発、歯科
検診結果に基づく表彰式を年2回学校行事に位置
付けて実施している。具体的な取り組みとしては
希望者を対象に週1回のフッ化物洗口の実施。家
庭内においてチェックシートを使用し歯みがきが不
十分であった箇所のマークにより視覚的に課題を
意識させ歯科医師や衛生士からのアドバイスをい
かして歯みがきの方法を改善させるものである。

（２）福岡県桂川町立桂川東小学校

穴井 由貴 先生

「歯・口の健康づくりにおける子供の自己管理能力の育成」を目指し、生涯を通して健康な歯・口を保つことができるようにテーマを設定。

通信や家庭学習の取り組みに歯・口の健康に関する内容を取り入れて保護者に啓発している。歯科健康診断結果から「自分の口の中の状態にあった歯みがきができていないこと」を課題として取り上げ、全校児童を対象に実施したアンケートのデータを基に子供が歯・口の健康課題に気づき課題解決のために①自己目標の設定②学校や家庭での実践③実践のふりかえり④次の実践に向けての改善というサイクルに準拠した活動により子供の望ましい生活習慣が定着するのが目標である。

具体的には給食後にうがいを行う「ぶくぶくタイム」（第1学年～第4学年）や歯みがきを行う「シャカシャカタイム」（第5学年・第6学年）を実施し口腔内を清潔に保つ意識を高めるとともに、正しい姿勢でよくかんで食べる習慣を身につけることを目的としてインナーマッスルトレーニングを朝の活動に取り入れて学校全体で毎日継続して行っている。

（３）埼玉県羽生市立東中学校

皆川 麻子 先生

渡邊 マユコ 先生

「歯・口は健康の入口」をキーワードに各学年の実態に合わせ歯衛生士をゲストティーチャーとして招き個々の生徒に目を向け実践的な態度や能力の育成に努めている。

1年生では染め出しを行い「自分の歯を知ろう」というタイトルのもとに自分に合った歯みがき方を学習、2年生では「歯と口の健康を考えよう」というタイトルのもとにRDテストの実施 かむ事の大切さと唾液の働きや菌の働きを理解・知識を高めた。3年生では「かむ事の大切さを知ろ

う」というタイトルのもとに咀嚼判定ガムで自分の咀嚼力を知り、かむ事の大切さを理解。また、歯ごたえのある食べ物について学びつつ栄養バランスも考えた献立づくりを行った。

羽生市では平成25年度から市内の全小中学校で週1回のフッ化物洗口を実施している。生徒保健委員会の活動として新聞を作ったり、きれいにみがいていた生徒への表彰、衛生チェック等を実施、家庭、地域、小学校とも連携しフッ化物洗口の有効性、安全性について説明、又治療が必要な生徒へ学級担任や部活動顧問と連携し早期の治療を促している。体育祭での参加賞を歯科医が勧める歯ブラシにしたり、毎日給食終了後、埼玉県歯科医師会監修の「歯をみがこう！」という曲を校内放送し歯みがきタイムを実施している。その結果、むし歯に対する意識が高まったがCO、GOに対しての理解や意識には個人差が認められる。

以上、研究発表校の実践に基づき、歯・口の健康づくりを目指した学校歯科保健活動の進め方について

- ①歯科健康診断の効果的な実施と結果等を活用した健康教育の実施について。
- ②各教科、特別活動及び総合的な学習の時間等の関連を図った指導計画の作用、実施、評価及び改善について。
- ③学校、家庭及び地域社会が連携した学校歯科保健活動の進め方について協議がなされた。

（４）福岡県教育庁教育振興部副理事兼体育スポーツ健康課長

寺崎 雅巳 先生

小学校から中学校期の児童生徒は乳歯から永久歯に生え変わる時期であり、特にむし歯が集中的に発症する。むし歯は一度罹患すると自然治癒も見込まれないことから、この時期のむし歯予防対策は非常に重要となる。

学校保健統計調査によると、毎年小中高ともに

減少の傾向にあり平成29年度は中学校及び高等学校はむし歯の割合が過去最低であった。

各発達の段階における課題としては

1) 幼児

幼児期は食べる機能の獲得において最も重要な時期であり、乳歯のむし歯の発生については現状では1歳から4歳までに約36%の幼児がむし歯を持ち、6歳までには約46%の幼児がむし歯を持つようになる。

2) 小学校

小学生期は心身の発育・発達が顕著であり、その変化を見据えた支援が必要。

幼児期に始まる基本的な生活習慣の確立を図りながら、さらに健康課題に対しては自律的に取り組むことができるように支援することが必要。

3) 中学校

中学生期は乳歯から永久歯にかわり、口腔内に対する気付きが希薄化する時期。

中学生期においては健康課題を明らかにし

ようとする意識を高め、その課題を解決しようとする態度を養う時期。

4) 高等学校

高校生期は成人期の入口に達し、生涯にわたる健康づくりの視点が必要。

ラグビー等のコンタクトスポーツや野球などで「歯・口の傷害」の件数が圧倒的に多くなるので、生涯にわたる安全確保の視点から自他の安全の保持増進に対する理解を深めることが大切。

学校歯科医は健康診断及びそれに基づく疾病の予防処置、感染症対策、食育、生活習慣病の予防や歯・口の健康づくり等においてそれぞれ重要な役割を担っている。さらには学校と地域の医療機関等との連携の要としての役割も期待されることから、各学校において児童生徒の多様な健康課題に的確に対応するため学校歯科医の有する専門的知見の積極的な活用が求められている。

第68回 全国歯科医協議会

学校歯科委員会 原田 和弥

平成30年10月25日（木）に鹿児島県鹿児島市のSHIROYAMA HOTEL Kagoshima 2階アメジストにおいて、第68回全国学校歯科協議会が開催され、県歯学校歯科担当理事千葉先生と参加しましたので報告致します。

鹿児島県県歯科医師会副会長、堀川清一先生の開会の辞に始まり、鹿児島県歯科医師会会長伊地

知博史先生、日本学校歯科医会会長川本強先生の挨拶があり、この協議会出席者全員の皆様が、その目的である「児童生徒の健康育成」に当事者意識を強く持ち、共に考え、情報を共有し、協議していくよう述べられました。

続いて文部科学大臣の代理の方、鹿児島県副知事他から祝辞をいただきました。

大臣表彰受賞者の紹介があり、前回開催県、三重県歯科医師会会長田所泰先生、次回開催県の埼玉県歯科医師会常務理事斎藤秀子先生の挨拶がありました。

(講演)

「こんなところにも目を向けよう！スクリーニングとして重要な学校歯科健康診断」

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
小児歯科分野教授 山崎 要一 先生

発達期の歯科健康診断で
注意を払っていただきたい特有な事項

①歯の外傷の影響

乳歯の外傷は後続永久歯の形成に時として重篤な障害を及ぼす事がある。また、脱臼歯を再植する場合は、歯根膜治癒に注意を払う必要がある。

②口腔習癖の歯列咬合への影響

幼児期から継続する吸指癖や舌癖は側方交叉咬合（鉗状咬合）や開咬を生み、歯の交換時にもその状態が維持され、やがて大きな顎偏位症へ推移する危険性がある。しかしながら、低年齢児では比較的容易な方法で短期的に咬合異常と咀嚼機能の大幅な改善を図る事が可能であり、成人期における顎外科手術を回避することも期待される。



③顎骨内の永久歯の形成と萌出の異常

永久歯の形成障害や萌出異常の原因には、鎖骨頭蓋異形成や骨形成不全症、大理石骨病などの全身的要因に加え、乳歯の根尖性歯周炎、歯原性の嚢胞や腫瘍、過剰歯、歯胚発育遅延、歯胚位置異常などの局所的要因が作用している場合も多い。

学校での集団健康診断においても年齢に適合した萌出状態や萌出順序、萌出状況の左右差、歯髓処置乳歯の交換状況などに注意を払い、危険性を察知して異常の発生を未然に防ぐため適切な勧告につながる事が期待される。

④永久歯の先天性欠如

永久歯の先天性欠如は、その発現部位や欠如歯数によって様々なタイプの歯列咬合異常を誘発するため、健全な永久歯咬合の育成を目標とした小児期からの継続的口腔管理を行う上で大きな問題となる。

先天性欠如の発現頻度については、これまで十分な情報提供がなされていなかったため日本小児歯科学会平成18～19年度学術委員会が中心になり、7大学による全国規模の調査を実施したところ10人に1人の割合で永久歯の欠如がみられた。

⑤呼吸障害の影響

口腔内の診察時には咽頭部にある口蓋扁桃の肥大状況も目に入る。



口蓋扁桃肥大は咽頭扁桃の肥大も想起させ、鼻呼吸の障害が推察される。口呼吸は上下顎骨の位置関係や歯列咬合形態の発育に影響を与える。

慌ただしい学校歯科健康診断の場でともすれば見逃されがちな小児期特有の様々な歯科的問題点を察知する気づきの重要性についての講演でした。

講演会終了後、同ホテルの3階サファイヤに移動して。懇親会が行われました。

多くの先生方が焼酎をうまそうに飲んでおられました。

この大会に参加し学校歯科医として改めて少しでも児童生徒の健康教育に携わる事ができるよう努めなければならない思いになりました。

来年度は埼玉県さいたま市開催の予定です。

平成30年度茨城県警察本部 多数遺体取り扱い訓練

警察歯科医 小林 克男

去る11月5日茨城県警察学校において、茨城県警察本部の多数遺体取り扱い訓練に参加したので報告いたします。

今年度は、警察官の遺体取り扱いに重点が置かれ、身元不明遺体の模擬検死作業が実施された。歯科医師会からの参加は警察歯科医小林克男・立原正仁が参加した。

訓練にあたり、歯科医師と警察官との連携において、口腔内所見採取は歯科医師が実施し、警察官がその補助に当たる旨の説明があった。この事は、災害時に限らず日常の口腔内所見採取も、警察歯科医師の業務であることを明確にしたものと評価できる。しかしながら、法令上は、口腔内所見採取は警察署長判断での協力要請となっており、必ずしも義務でないことが医師への検案依頼とは大きく異なっている。



この事は東日本大震災を経験してもなお警察歯科医の育成という観点からは、大きなマイナスと危惧するものである。また、警察歯科医師においても、口腔内所見採取活動に協力し経験を積み重ねることが必要と考える。

訓練後に、参加警察官の教養の一環として警察歯科医師「身元不明遺体の口腔内所見採取の流れ及び事例報告」と筑波剖検センター長の早川秀幸先生より、「東日本大震災においての検死活動」の講演があった。



講演の中で、生前カルテ収集の重要性、歯科治療痕跡の特殊性を強調し、昨今のインプラント治療、CAD/CAM冠など、専門知識なしには判別しにくい補綴治療については必ず警察歯科医を利用し、口腔内所見採取を実施するよう要請した。



【体験入学】

高校生や社会人を対象とした体験入学を7月25日（水）、8月22日（水）、9月29日（土）に実施しました。

歯科衛生士科ではスケーリングやバキューム、印象採得、ブラッシングを体験して頂きました。3年生の代表者が、各ブロックに分かれ説明を行いましたが、専門用語を使わず、自分の言葉で分かりやすく伝えることの難しさを感じながらも、回数を重ねるごとに自信にあふれた表情に変わっていく様子が印象的でした。



歯科技工士科では、スライドを用いてクラウンや全部床義歯の製作過程の説明を行ったり、石膏の練和から注入、石膏彫刻、CAD/CAMなどを体験してもらいました。参加者は緊張した面持ちで、本科学生のサポートを受けながら一生懸命作業を行っていました。

近年は、高校1、2年生から体験入学に積極的に参加する生徒も多く、自分の進路への関心の高



さがうかがえます。進路選択をする上で歯科衛生士、歯科技工士のイメージが具体的となり、興味を持って頂けたら嬉しく思います。

（文責 小田倉 川井）

【スポーツ大会（全学年）】 — 歯科衛生士科 —

9月18日（火）秋晴れの空の下、内原ヘルスパークに於いてスポーツ大会が開催されました。2年生が中心となり準備・企画をしました。どの学年もチーム全員で声をかけ合いながら、さわやかに汗を流し、楽しそうにプレーしていました。

バレーボールでは、華麗なアタックやサーブ、バスケットボールは時折オフェンス・ディフェンスの攻撃試合が進められ、真剣に競い合いました。大縄跳びは、3分間に跳んだ回数で勝敗が決まるため、みんな夢中で跳び続けていました。応援にも熱が入りクラスの絆を垣間見る事ができました。恒例の学年対抗のリレーでは、3年生に混じり専

任も奮闘しました。どの学年も大迫力のレース展開となり応援の声がより一層大きくなり会場は盛り上がりを迎えました。全種目の競技の結果優勝は、2年生となりました。

普段の学校生活では見ることのできない新たな一面を見る事ができ、他学年相互の親睦が深められたのではないかと思います。

また、スポーツ大会の最後には、3年生へ国家試験合格を目指して頑張ってもらいたいと後輩達から激励のことば、3年生からは臨床実習で経験したことなどのアドバイスと、必ず全員で国家試験合格をするという決意を表明してくれました。

(文責 橋本)



全学年集合写真



茨城県歯科医師会親善ソフトボール大会報告

(社)珂北歯科医師会 鹿志村 圭

去る10月25日（木）、恒例の茨城県歯科医師会地区対抗親善ソフトボール大会が、日立歯科医師会の主管により水戸市総合運動公園軟式野球場にて開催されました。当日は天候に恵まれ絶好のソフトボール大会日和となりました。

今回は日立、珂北、水戸、東西、鹿行、土浦石岡、つくば、県西の8チームの参加となり、各支部の先生方の勇姿を拝見することができました。

開会セレモニー終了後、茨歯会会長森永和男先生による始球式。見事な投球をされ、ついに試合開始となりました。

初戦の相手は東西スターズ!!
我々珂北ヤンキースは雨の影響もあり、なかなか練習日が確保できず緊張の初戦ではありましたが、浅香康仁キャプテンによる采配のもと、初回から小刻みに点を重ね、投手陣が相手打線を1点に抑えて快勝しました。

続く準決勝は昨年準優勝の水戸ホワイトライオンズ。機動力とパワーのある先生が多く、序盤からお互いに点を重

ね接戦でしたが、終盤に打線が爆発し14対8でなんとか勝利を収めることができました。

決勝は県西バスターズとの一戦でした。毎年のように優勝争いを繰り広げるチームを相手に厳しい試合が予想されました。連戦の疲れから満身創痍の先生も多い中、お互いにエラーを出すこともなく次々に好守が見られた緊迫した展開でした。

4回までお互い0行進で点が入らず、なんとか5回に連打から先制点を奪い、5点のリード。最終回、最後の打者の打球がセンターに上がり、青砥聖二先生のウイニングキャッチで試合終了！我々珂北支部は第8回大会以来15年振りの優勝を成し遂げました。夜の祝勝会では小林克男珂北歯科医



師会会長、浅香康仁キャプテンのもと、皆でお酒をのみ、楽しく祝うことができました。今回15年ぶりの優勝ではありましたが、また来年もおいしいお酒が飲めるよう練習に励みたいと思います。

朝早くから準備をしていただきました日立支部の先生方お忙しい中、本当にありがとうございました。

各支部の先生方、また来年もよろしくお願いいたします。





〒310-0911 茨城県水戸市見和2-292
公益社団法人
茨城県歯科衛生士会
TEL・FAX 029-253-5807
<http://www.ibaraki-dh.net/>
E-mail jimu@ibaraki-dh.net

(公社)茨城県歯科衛生士会 県西支部 池田 明美

私たち県西支部は、会員30数名の中、10数名で県西地域の市町村の乳幼児健診に、携わっております。

健診に来られる保護者の方にお伝えする指導内容は、言葉は別でも方向性は同じものと思っておりますが、こちらの言い方や聞き手のとらえ方でずれが生じる場合が稀にあります。

少しでもトラブルを回避するべく今回の支部会で、さらなる統一性を整える為、議論しました。

主な内容は、レノビーゴはいつ頃から使い始めたら良いかの問いには歯が生え始めたら。乾いた歯ブラシに直接吹きかけ、磨いた後はうがいをさせない。

前歯は直接吹きかけても良いが奥歯は届きづらいので歯ブラシで対応するのが好ましい。500ppmの歯磨剤の量は、5mm以下を基本（1日何回磨いているのか聞くのも参考）。うがいの練習は、早めに（歯磨剤が、早く使えるようになるための対応として）。

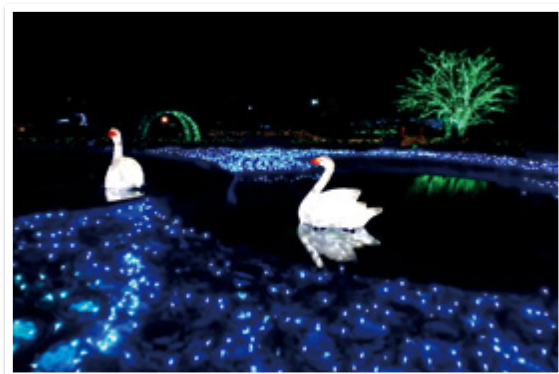
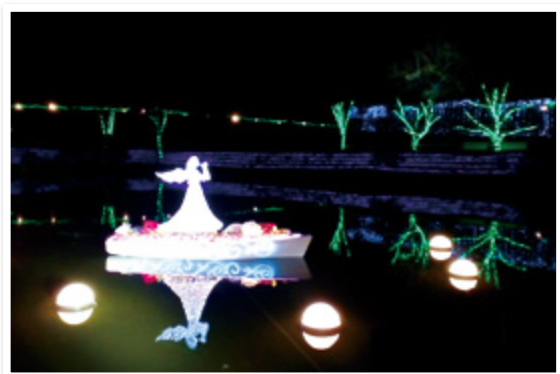
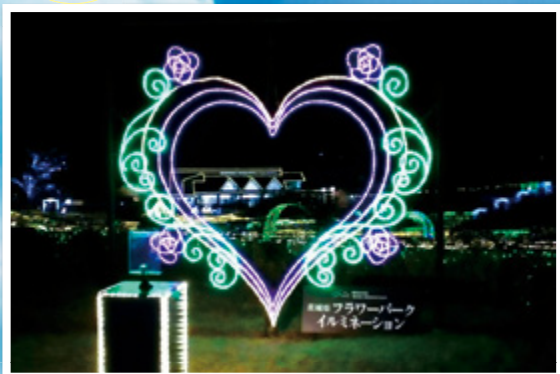
むし歯があるのに母乳がやめられないの問いにはやめろとは断言しない。やめられると良いですねと言いつつリスクを教える。

これ以上むし歯を増やさないため何ができるか、“ママが出来るところから始めて”と印象良くコミュニケーションをとりながら（ここが大事）、お伝えしていきたいと思います。



みんなの写真館

Photo
Gallery



(社)茨城・県西歯科医師会 古橋 仁

会 員 数

平成30年10月31日現在

地 区	会員数(前月比)
日 立	117
珂 北	144 ±0
水 戸	154
東西茨城	72 +1
鹿 行	105 +1
土浦石岡	175
つ く ば	126
県 南	180
県 西	153 -1
西 南	104
準 会 員	5
計	1,335 +1

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、ご自宅の古いアルバムに埋もれた写真などをお送り下さい。

1種会員 1,153名
2種会員 56名
終身会員 121名
準 会 員 5名
合 計 1,335名



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 30 年 12 月

発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地

電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075

ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>

E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 渡辺 進

編集人 柴岡 永子



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。